



第184期 業績のご報告

2007年4月1日~2008年3月31日

企業目的

感動を・ともに・創る

ヤマハグループは
音・音楽を原点に培った技術と感性で
新たな感動と豊かな文化を
世界の人々とともに創りつづけます。

目次

株主の皆さまへ	1.2
連結事業の概況	3.4
特集	5.6
ピアノの製造改革を推進	
新商品&トピックス	7~12
連結財務諸表	13.14
個別財務諸表	15
株式の状況	16
株主優待のご案内	17
会社の概要	18
株主メモ	18

株主の皆さまへ

株主の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。当社第184期(2007年4月1日から2008年3月31日まで)の事業の状況についてご報告申し上げます。

当期におけるわが国経済は、好調な企業収益やそれに伴う設備投資の増加等に支えられ緩やかな回復が続きましたが、原油や原材料価格の高騰、円高進行等により、期の後半には先行きへの不透明感を増しました。海外では、米国経済が減速感を強めましたが、欧州経済は堅調に推移し、中国をはじめとするアジア諸国の景気も拡大しました。

このような状況の中で当社グループは、中期経営計画「YGP2010(Yamaha Growth Plan 2010 :2008年3月期~2010年3月期)」の成長戦略を着実に実現すべく、以下の課題に積極的に取り組みました。

“The Sound Company”領域(楽器・音響・音楽ソフト、AV・IT、半導体事業)での成長を目指し、新技術の開発、徹底したマーケティングに基づく新たな高付加価値商品の開発を進める一方、インドネシアや中国における生産拠点の増強を進めたほか、ロシアやインドに現地法人を設立するなど、新興市場における販売網の構築・強化にも努めました。また、グローバルな高級ピアノ市場での販売強化を図るべくオーストリアのピアノメーカー、ベーゼンドルファー社を買収いたしました。業務用音響機器事業では、商品ライ

ンアップの充実、販売体制の強化に加え、業務提携・M&A効果による事業領域の拡大を推進しました。さらに、音楽ソフト事業の拡大に向け株式会社ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングスを設立し、当社グループ内の音楽ソフト事業の再編・統合を行いました。

成長の基盤となる収益力の一層の向上を図るため、ピアノ製造拠点の統合などの製造改革やSCM・業務改革を進めたほか、“多角化事業”領域(リビング、レクリエーション、その他の事業)において、商品力の強化、サービス向上及び事業の効率化に努めました。

当社グループの総合力を高めるため、グループ全体の内部統制システムの整備・評価、コンプライアンス教育の徹底や環境問題への対応に積極的に取り組みました。

販売の状況につきましては、円安の影響に加え、楽器事業とその他の事業が好調に推移しましたが、電子金属事業子会社やリゾート施設の一部を売却したことによる売上げの減少が150億円あり、売上高は5,487億54百万円(前期比0.3%減少)となりました。

損益につきましては、円安の影響や楽器事業とその他の事業の増益により、営業利益は328億45百万円(前期比18.6%増加)となりました。経常利益は、ヤマハ発動機株式会社株式の一部売却に伴い同社が持分法適用関



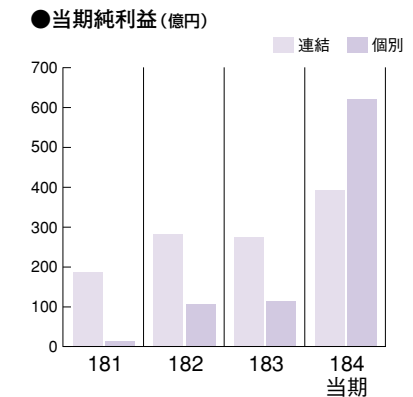
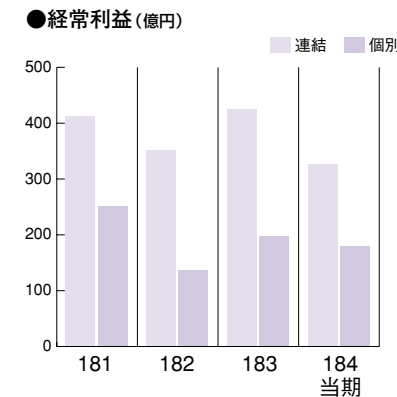
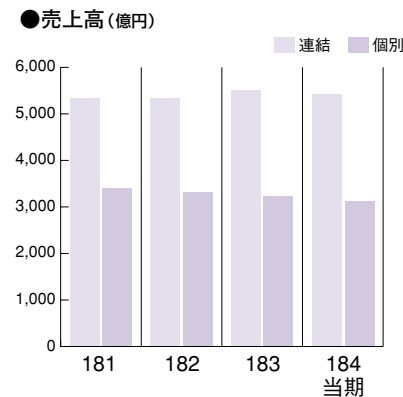
連会社から外れたことにより、持分法による投資利益が減少したことから325億84百万円(前期比23.6%減少)となりました。当期純利益は、上記に係る関係会社株式売却益を特別利益に計上したことから395億58百万円(前期比42.0%増加)となりました。

当社グループは、中期経営計画「YGP2010」の成長戦略を着実に実現すべく、“The Sound Company”領域での成長の実現と、“多角化事業”領域での強固なポジションの確立に取り組んでまいります。また、事業・商品戦略を強化するためのブランド戦略の推進等の全社共通テーマや、グループ総合力を高めるガバナンスの向上にも努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2008年6月
代表取締役社長

梅村 充

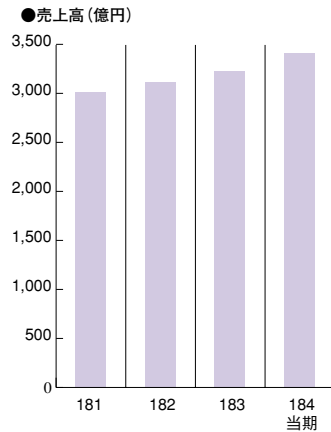


楽器事業

ピアノは、欧州や中国他アジア市場で好調に推移し、売上げ増加となりました。電子楽器は、海外市場においてデジタルピアノ等が売上げを伸ばし、音響機器も、海外市場を中心に売上げ増加となりました。また、管楽器や弦・打楽器も概ね順調に推移しました。また、教室収入は、堅調に推移しましたが、コンテンツ配信収入は着メロ市場の縮退により売上げ減少となりました。

以上により、当事業の売上高は3,400億21百万円（前期比4.3%増加）、営業利益は279億24百万円（前期比26.7%増加）となりました。

- 主要連結子会社
(株)ヤマハミュージック東京他販売会社9社
Yamaha Corporation of America
Yamaha Canada Music Ltd.
Yamaha Music Holding Europe G.m.b.H
Yamaha Music Central Europe G.m.b.H
Yamaha Music UK Ltd.
Yamaha Musique France S.A.S.
P.T.Yamaha Music Manufacturing Asia
雅馬哈楽器音響(中国)投資有限公司
天津雅馬哈電子楽器有限公司
杭州雅馬哈楽器有限公司
- 主要製品
ピアノ、電子楽器、管・弦・打楽器、教育楽器、音響機器、防音室、音楽教室、英語教室、コンテンツ配信、調律

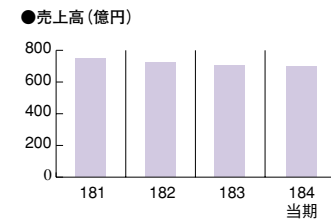


AV・IT事業

オーディオは、フロント・サラウンド・システム商品が伸長しましたが、AVレシーバーの競合激化により、売上げは横這いとなりました。また、情報通信機器は売上げ減少となりました。

以上により、当事業の売上高は708億14百万円（前期比2.8%減少）、営業利益は18億39百万円（前期比14.0%減少）となりました。

- 主要連結子会社
ヤマハエレクトロニクスマーケティング(株)
Yamaha Electronics Corporation,USA
Yamaha Elektronik Europa G.m.b.H
Yamaha Electronics Manufacturing (M) Sdn.Bhd.
雅馬哈楽器音響(中国)投資有限公司
- 主要製品
オーディオ、情報通信機器

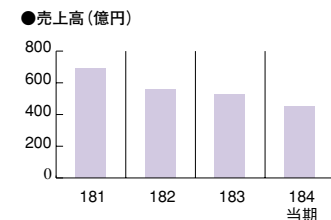


電子機器・電子金属事業

電子機器事業は、デジタルアンプが伸長しましたが、携帯電話用音源LSIの需要減少により、売上げ減少となりました。電子金属事業は、2007年11月30日付でDOWAメタルテック株式会社に電子金属事業を営む連結子会社ヤマハメタニクス株式会社の株式の90%を譲渡し、同社が下期より連結の範囲から外れたことから、大幅な売上げ減少となりました。

以上により、当事業の売上高は450億円（前期比17.9%減少）、営業利益は18億63百万円（前期比39.9%減少）となりました。

- 主要連結子会社
ヤマハ鹿児島セミコンダクタ(株)
- 主要製品
半導体

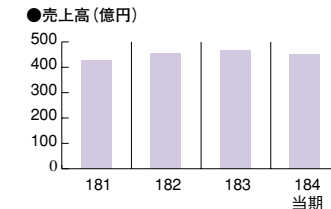


リビング事業

システムキッチン^{ベリー}は、普及価格帯の「berry」シリーズを中心に好調に推移しましたが、システムバスは、売上げ減少となりました。

以上により、当事業の売上高は455億20百万円（前期比2.3%減少）、営業利益は5億88百万円（前期比48.8%減少）となりました。

- 主要連結子会社
ヤマハリビングテック(株)
- 主要製品
システムキッチン、システムバス、洗面化粧台

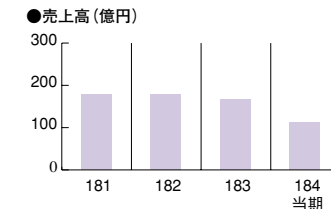


レクリエーション事業

2007年10月1日付で三井不動産リゾート株式会社にレクリエーション事業を営む4施設(キロロ、鳥羽国際ホテル、合歓の郷、はいむるぶし)の事業用資産及び各運営子会社の全株式を譲渡し、各社が下期より連結の範囲から外れたことから、大幅な売上げ減少となりました。

以上により、当事業の売上高は113億53百万円（前期比36.2%減少）、営業損失は11億3百万円（前期は営業損失15億36百万円）となりました。

- 主要連結子会社
(株)つま恋
(株)葛城
- 主要製品
宿泊施設及びスポーツ施設の経営

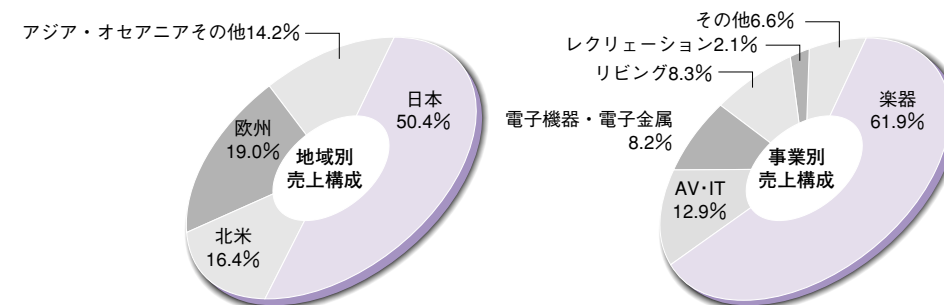
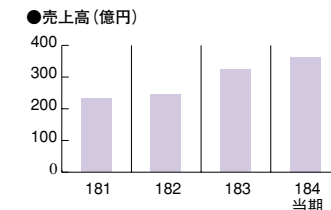


その他の事業

ゴルフ用品事業は、国内販売及び輸出ともに拡大したため、大幅な売上げ増加となりました。金型・部品事業は、マグネシウム部品やプラスチック部品が売上げを伸ばし、自動車用内装部品事業も、売上げ増加となりました。

以上により、当事業の売上高は360億44百万円（前期比11.4%増加）、営業利益は17億31百万円（前期比118.0%増加）となりました。

- 主要連結子会社
ヤマハファインテック(株)
- 主要製品
ゴルフ用品、自動車用内装部品、FA機器、金型・部品





ピアノの製造改革を推進

当社は、グローバルなピアノ生産体制を整備し、国内ピアノ生産の掛川工場への統合、及び中国・インドネシアピアノ工場の生産能力増強を進めております。

国内ピアノ工場を掛川工場に集約

当社の国内ピアノ工場は、浜松本社グランドピアノ工場と掛川アップライトピアノ工場の2カ所がありますが、2010年内を目途に掛川工場に集約します。これにより熟練の技が必要なピアノ生産の技術・技能伝承を円滑に図るとともに、年間生産アップライトピアノ2.4万台、グランドピアノ1.6万台の体制を構築します。

掛川工場集約の狙い

- ◇ピアノ生産拠点統合による効率化、品質、コスト競争力の向上
- ◇ピアノ製造における技術・技能の伝承のための人材育成・環境整備
- ◇ヤマハピアノの顔としての拠点整備



掛川工場



掛川工場ハーモニープラザを建設

ヤマハピアノのふるさと掛川から最高のピアノをお客様にお届けするため、2007年に掛川工場ハーモニープラザを建設しました。大小さまざまなピアノ選定室やピアノ試弾ホールを備え、ヤマハピアノのふるさとにお客様をお迎えする玄関口として2009年より本格的に稼働する予定です。

ヤマハピアノテクニカルアカデミー

2007年、「ヤマハピアノテクニカルアカデミー」を掛川工場ハーモニープラザに移転しました。45室にもおよび実習用研修室をはじめ、充実した設備・環境の中で、優秀なピアノ技術者を育成するための研修を実施しています。また、当プラザに隣接する工場で熟練工の生きた技術に触れることができるのも研修生にとって貴重な体験となっています。



中国杭州工場

中国杭州ピアノ工場の生産能力の増強

ピアノ需要が拡大する中国市場に対応し、販売シェアを更に伸ばすため、杭州ピアノ工場の生産能力の増強を進めています。2008年に第3棟の建設を開始し、2009年4月には稼働を開始する予定です。新棟の完成により、年間生産アップライトピアノ3万台の体制を構築します。

インドネシア工場では欧米向けピアノを生産

インドネシア工場では、グランドピアノ「GB1」、アップライトピアノ「b1」、自動演奏機能がついたグランドピアノ「DGB1CD」など、年間2.4万台を生産。欧州や北米の各国に輸出しています。



b1



DGB1CD

本質的なクオリティを追求し、響きと表現力に磨きをかけた、
グランドピアノ「New Cシリーズ」

新しいCシリーズは、特に音作りの最終工程の「整調」と「整音」にこだわりました。熟練した技術者が1台ずつ丹念に仕上げることにより、豊かな響きと質の高い表現力が生まれます。また、鍵盤の素材にニューアイボリーと黒檀調天然木を使用することにより自然なタッチ感を実現しました。



整音
打弦するハンマーの形状や弾性を調節して、88鍵がバランス良く豊かな音で鳴るよう、音色を整える工程。

同時発売のCシリーズ「アーティストックエディション」では響板とミュージックワイヤーに上級シリーズのグランドピアノと同等のものを採用。ピアノ指導者や音楽大学の学生の皆様などにもお薦めのシリーズです。
※2008年5月までの期間限定商品です。

整調
1鍵あたり60以上の部品で構成されるアクションを調整して鍵盤タッチを整える工程。

音楽が楽しめる、クラビノーバ「CVP」シリーズ。
フルモデルチェンジにより、5機種12モデルを発売。



高品位で豊富な音色とリアルなタッチ感を備え、多彩な音楽の楽しみ方を提案するクラビノーバ「CVP」シリーズ。今回発売の新機種は、新音源によるリアルな音色で表現力がさらに向上しました。またパネルデザインを一新して一段と使いやすくなり、その多彩な機能を駆使した演奏が楽しめます。



シリーズ最高機種の「CVP-409」は優雅な鏡面艶出し仕上げのやわらかく格調高いデザイン。象牙調仕上げの木製の鍵盤により、ピアノに近いタッチ感を実現しました。

リアルなピアノの響きと弾き心地に、
電子ピアノならではの楽しさをプラスした「P-85/P-85S」。

場所を取らないコンパクトでスタイリッシュなデザイン。フルコンサートグランドピアノの音をサンプリングした豊かで自然な音色とグランドピアノのデリケートなタッチ感を再現する88鍵の鍵盤。さらに、BGMとしても楽しめる名曲50選を内蔵。ご自身の演奏を記録できるレコーダーも装備しているので、趣味でピアノを弾かれる大人の方々にもご好評をいただいています。



軽量なのに豊かなサウンド、
新コンセプトのエレキギターが誕生。



エレキベース RBX4A2



エレキギター RGXA2

新設計のボディ構造により大幅な軽量化を実現、ギタリストのパフォーマンスを最大限に引き出します。軽量ながらレスポンスの良い、豊かなサウンド。細部までこだわった斬新なデザインと、美しいカラーリングの先進的なギターです。また、同じボディ構造を採用し、軽量ながらパンチのある重低音を実現したエレキベースも発売しました。



ピックアップセレクターはLEDでピックアップの選択状態を表示。

音楽を身近に楽しめる「Music Clock」シリーズ登場。



インテリア感覚のコンパクトなデスクトップオーディオシステム「TSX-100」。iPodドック、CDプレーヤーとクロックラジオを搭載し、ハイパワーアンプとヤマハ独自の「ツインSR-Bass」技術により、クリアで迫力のある高音質が楽しめます。

ワンボディで本格的なサラウンド。
「YSP」シリーズ3品番を発売。



YSP-500

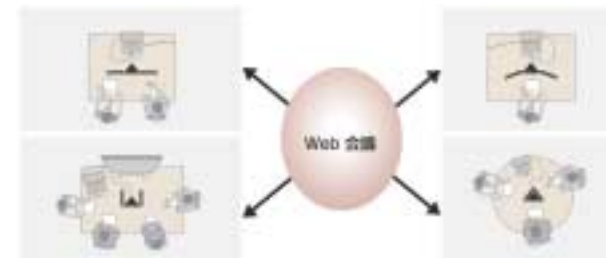
人気のデジタル・サウンド・プロジェクター。「YSP-4000」「YSP-3000」は新たにHDMI端子を装備、高品位な音と映像のデータが伝送できます。「YSP-500」は本体幅61cm、設置しやすいコンパクトモデル。新機能「マイサラウンド」により、壁の反射音が利用しにくい部屋でもサラウンドが楽しめます。

「音のヤマハ」が提案する新しい形のWeb会議用
マイクスピーカー「PJP-25UR」

ヤマハは、会議システムにおける良い音は「話しやすさ」「聞きやすさ」と考えます。従来の製品は、音質が悪く、会話が音切れして会議が進まないなどの問題がありました。当社は、この問題を解決した製品を発売。スムーズな双方向会話ができ、集音範囲も広く音質も抜群、「音のヤマハ」が提案する新しい会議システムです。



新発売の「PJP-25UR」は、B5ノートに収まるコンパクト&軽量モデル。オフィスの狭いデスクや出張先でも利用できます。また、新機能の可動式マイクアームにより、利用状況にあわせ集音力を高めます。



「inpresX」シリーズがさらに進化。
ウッドモデル、アイアンモデル、パターを発売。

ドライバーは「X-マルチフェース」により、高反発係数エリアがさらに拡大。SLEルール（反発規制）に対応しながら、さらに飛距離を伸ばしました。アイアンは、藤田寛之プロが使用する「V Forged TOUR MODEL」をはじめ4タイプを発売。打ちやすさや上がりやすさを追求しました。



2007年日本ゴルフツアーで賞金王を獲得した谷口徹プロと3年間の用具使用契約を締結。また本年4月には、ヤマハ発動機（株）とともに「ヤマハレディースオープン葛城」を開催しました。

右から、谷口プロ、梅村ヤマハ社長、従来からの契約ゴルファー藤田プロ。



ヤマハミュージックエンタテインメントグループが始動。

当社、当社グループ会社及び(財)ヤマハ音楽振興会は、これまでアマチュアミュージシャン活動支援、アーティスト発掘・育成・創作活動支援や各種メディアを通して創作作品の市場への供給を展開してきました。これらの音楽ソフト関連業務全体をより効果的で柔軟な体制で推進するため、(株)ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス及び事業会社に事業再編を行いました。今後は、より魅力的なサービス・商品を提供していきます。



(株)ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス
音楽ソフト事業グループ会社の事業統括

(株)ヤマハミュージックパブリッシング
原盤制作、イベント企画、著作権の管理・開発

(株)ヤマハミュージックメディア
出版事業、コンテンツ配信事業

(株)ヤマハミュージックコミュニケーションズ
音楽・映像ソフトの企画、制作、製造、販売

(株)ヤマハエーアンドアール
音楽プロダクション業務、レーベル業務

(株)ヤマハミュージックアーティスト
音楽プロダクション業務

(株)ヤマハ・アトス・ミュージック・アンド・ビジュアルズ
映像コンテンツ企画、制作、販売

ウィーンのベーゼンドルファー社の全株式を取得。



ヨハン・シュトラウスモデル

当社は、巨匠フランツ・リストも愛用したオーストリアの名門ピアノメーカー、ベーゼンドルファー社の全株式を取得しました。同社は1828年の創業以来、伝統的な製造を継承しており、コンサート用グランドピアノはウィーン独特の響きを有しています。今後は同社の伝統やブランドを尊重しながら、プレミアムピアノ市場でのプレゼンスを拡大します。



ベーゼンドルファー社工場

オーディオ用スピーカー「Soavo-1」がEISA賞を受賞。



Hi-Fiオーディオ用スピーカーシステム「Soavo-1」がEISA(欧州映像音響協会)賞を受賞しました。この賞は欧州20カ国の映像音響専門誌が加盟する協会が毎年優れた製品を選出するものです。受賞理由として「Soavo-1」の歌声などの中音域をリアルに再現するスピーカー構成や、不要共振を排除する洗練されたデザインに加え、欧州でのチューニングによる高解像度・透明感・音場感が高く評価されました。



「ヤマハ ジャズフェスティバル イン 浜松 '07」開催。



2007年6月17日「第16回ハママツ・ジャズ・ウィーク」の最終日、ヤマハジャズフェスティバルイン浜松'07が開催されました。会場となったアクトシティ浜松大ホールは約2,300人の聴衆で超満員となりました。今回は、渡辺貞夫が11年ぶりに登場。多彩な選曲と圧倒的なパフォーマンスにより感動的なステージが展開され、ホールは大きな拍手に包み込まれました。



●連結貸借対照表の要旨

(単位:百万円)

(資産の部)	184期(当期) '08年3月	183期 '07年3月	(負債の部)	184期(当期) '08年3月	183期 '07年3月
流動資産	275,754	231,033	流動負債	120,174	136,656
現金及び預金	73,619	46,702	支払手形及び買掛金	35,017	43,165
受取手形及び売掛金	68,680	78,669	短期借入金	14,419	15,118
有価証券	31,200	419	一年以内返済の長期借入金	4,472	4,301
棚卸資産	76,304	82,214	未払費用及び未払金	41,443	54,415
繰延税金資産	17,642	17,724	未払法人税等	14,916	6,012
その他	11,861	7,362	諸引当金	3,973	5,976
貸倒引当金	△3,554	△2,060	その他	5,931	7,666
固定資産	264,592	327,998	固定負債	77,144	70,977
有形固定資産	139,575	149,872	長期借入金	2,145	6,132
建物及び構築物	42,602	46,179	繰延税金負債	13,999	239
機械装置及び運搬具	18,594	23,034	再評価に係る繰延税金負債	16,811	17,735
工具器具備品	13,115	15,339	退職給付引当金	25,311	27,140
土地	61,134	63,495	長期預り金	17,040	17,424
建設仮勘定	4,129	1,824	その他	1,836	2,303
無形固定資産	2,471	2,951	負債合計	197,318	207,633
投資その他の資産	122,544	175,174	(純資産の部)		
投資有価証券	109,943	150,369	株主資本	297,570	328,804
繰延税金資産	2,065	16,790	資本金	28,534	28,534
その他	11,440	9,038	資本剰余金	40,054	40,054
貸倒引当金	△904	△1,022	利益剰余金	229,307	260,555
			自己株式	△326	△339
			評価・換算差額等	42,074	17,662
			少数株主持分	3,383	4,931
資産合計	540,347	559,031	純資産合計	343,028	351,398
			負債純資産合計	540,347	559,031

●連結損益計算書の要旨

(単位:百万円)

	184期(当期) '07年4月~'08年3月	183期 '06年4月~'07年3月
売上高	548,754	550,361
売上原価	343,686	352,382
延払未実現利益	△1	1
売上総利益	205,066	197,980
販売費及び一般管理費	172,220	170,295
営業利益	32,845	27,685
営業外収益	6,192	21,334
営業外費用	6,453	6,393
経常利益	32,584	42,626
特別利益	32,725	606
特別損失	2,799	10,130
税金等調整前当期純利益	62,510	33,101
法人税、住民税及び事業税	17,552	7,010
法人税等調整額	4,710	△2,268
少数株主利益	689	493
当期純利益	39,558	27,866

●連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位:百万円)

	184期(当期) '07年4月~'08年3月	183期 '06年4月~'07年3月
営業活動によるキャッシュ・フロー	37,225	39,732
投資活動によるキャッシュ・フロー	41,999	△22,427
財務活動によるキャッシュ・フロー	△19,314	△8,246
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,398	1,464
現金及び現金同等物の増減額	57,512	10,523
現金及び現金同等物の期首残高	45,926	35,434
新規連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高	41	—
除外連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高	△108	△31
現金及び現金同等物の期末残高	103,371	45,926

●連結株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

184期(当期) '07年4月~'08年3月	株主資本					評価・換算差額等					少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ 損益	土地 再評価 差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
'07年3月31日残高	28,534	40,054	260,555	△339	328,804	13,718	△406	18,116	△13,765	17,662	4,931	351,398
当期中の変動額												
剰余金の配当			△7,736		△7,736							△7,736
当期純利益			39,558		39,558							39,558
連結範囲の変動			△656		△656							△656
持分法の適用範囲の変動			△60,275	43	△60,232							△60,232
土地再評価差額金の取崩			△2,137		△2,137							△2,137
自己株式の取得				△29	△29							△29
株主資本以外の項目の 当期中の変動額(純額)						35,227	614	△3,254	△8,175	24,411	△1,547	22,864
当期中の変動額合計	—	—	△31,247	13	△31,234	35,227	614	△3,254	△8,175	24,411	△1,547	△8,369
'08年3月31日残高	28,534	40,054	229,307	△326	297,570	48,945	207	14,861	△21,940	42,074	3,383	343,028

●貸借対照表の要旨

(単位:百万円)

(資産の部)	184期(当期) '08年3月	183期 '07年3月	(負債の部)	184期(当期) '08年3月	183期 '07年3月
流動資産	141,034	91,756	流動負債	61,212	65,538
当座資産	98,641	49,868	固定負債	68,631	56,197
棚卸資産	24,148	26,789	負債合計	129,844	121,736
その他	18,244	15,097	(純資産の部)		
固定資産	266,704	217,246	株主資本	216,630	164,509
有形固定資産	85,033	86,524	資本金	28,534	28,534
無形固定資産	75	99	資本剰余金	40,054	40,054
投資その他の資産	181,596	130,621	利益剰余金	148,367	96,216
			自己株式	△326	△296
			評価・換算差額等	61,264	22,756
資産合計	407,739	309,002	純資産合計	277,894	187,266
			負債純資産合計	407,739	309,002

●損益計算書の要旨

(単位:百万円)

	184期(当期) '07年4月~'08年3月	183期 '06年4月~'07年3月
売上高	315,645	323,043
売上原価	237,376	244,594
売上総利益	78,269	78,449
販売費及び一般管理費	65,924	65,890
営業利益	12,344	12,558
営業外収益	6,275	7,996
営業外費用	679	694
経常利益	17,941	19,860
特別利益	63,749	524
特別損失	1,820	7,861
税引前当期純利益	79,870	12,523
法人税、住民税及び事業税	13,115	3,267
法人税等調整額	4,730	△2,054
当期純利益	62,024	11,310

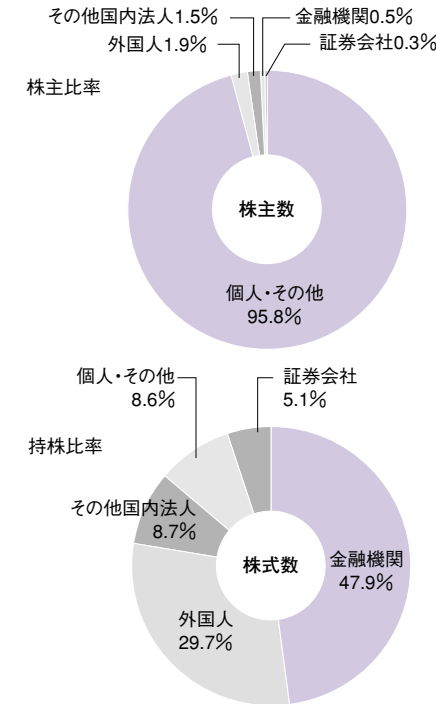
- 発行可能株式総数 700,000,000株
- 発行済株式総数 206,524,626株
- 株主数 17,113名

●株主分布状況

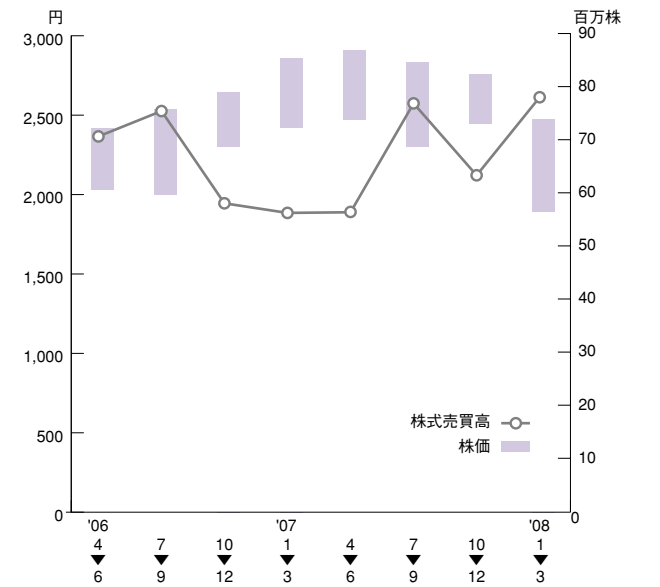
株主構成	株主数	株式数
個人・その他	16,394名	17,760千株
金融機関	94	98,891
その他国内法人	249	18,003
外国人	328	61,374
証券会社	48	10,494

●大株主の状況

株主名	所有株式数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	14,693千株	7.11%
ヤマハ発動機株式会社	10,216	4.95
ジェーピー モルガン チェース バンク	9,809	4.75
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	9,152	4.43
三井住友海上火災保険株式会社	8,918	4.32
株式会社みずほ銀行	8,779	4.25
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	8,528	4.13
株式会社静岡銀行	8,349	4.04
住友生命保険相互会社	7,300	3.53
ドイツ証券株式会社	6,722	3.25



●株価及び株式売買高の推移 (東京証券取引所)



株主優待のご案内

ヤマハでは、株主の皆様からの日頃のご支援にお応えするとともに、今後もより多くの皆様に当社の事業へのご理解とご支持をいただくことを願い、2006年より株主優待制度を実施しています。

毎年3月31日現在の当社株主名簿にお名前が記載されている100株以上保有の株主様に対して、株主総会後の6月下旬～7月上旬頃に株主優待品をお届けいたします。

100株..... 以上の株主様

優待1 株主優待券 1冊

- ヤマハ楽器レンタル/ヤマハエレクトーン・レンタルシステム登録料無料券 2枚
システム利用時の登録料(2,100円) 無料
- Jリーグ ジュビロ磐田観戦割引券 4枚
ジュビロ磐田主催ホームゲーム(ヤマハスタジアム、エコパスタジアム)の観戦券を平均10%割引



優待2 ヤマハ所属アーティスト株主様限定CD

- ヤマハ所属アーティストの曲を集めたCD



優待3 ヤマハ携帯コンテンツ無料サービス

- ヤマハの人気モバイルサイト[ヤマハ★ウタっちゃん!]の月額315円コース無料利用
会員ポイントを使って最新のJ-POPをはじめ4万曲を超える着うた、着メロをダウンロード

1,000株..... 以上の株主様

優待1 + 優待2 + 優待3 さらに

優待4 ヤマハ発行の音楽生活誌「音遊人(みゅーじん)」年6回

- 6月発行分から翌年の4月発行分まで、隔月で年6冊送付します



● 詳しい株主情報は、ヤマハ投資家向け情報をご覧ください。 <http://www.yamaha.co.jp/about/ir/>
経営企画室 TEL. 03-5488-6602 FAX. 03-5488-5060

会社の概要 (2008年3月31日現在)

● 商号	ヤマハ株式会社 YAMAHA CORPORATION
● 本店	〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10番1号
● 設立	1897年10月12日(創業1887年)
● 資本金	28,534,856,685円
● 従業員数	19,785人(連結) 5,230人(単独) ※いずれも臨時従業員を含んでおりません。
● 役員	
取締役	取締役会長 伊藤 修 二 代表取締役社長 梅 村 充 取締役専務執行役員 加藤 博 万 取締役常務執行役員 黒江 常 夫 取締役常務執行役員 岡部 比呂男 取締役 長谷川 至 取締役執行役員 八幡 泰 司 取締役執行役員 高橋 源 樹
監査役	常勤監査役 堀 越 美知夫 常勤監査役 牧 野 時 久 監査役 三 浦 州 夫 監査役 寺 井 康 晴
執行役員	田 丸 卓 也 新 美 幸 二 吉 良 康 宏 小 原 辰 三 佐 々 木 勉 越 場 正 明 土 井 好 広 中 田 卓 也 小 野 田 孝 加 藤 政 人 三 木 渡

株主メモ

● 事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
● 定時株主総会の基準日	3月31日
● 定時株主総会	6月
● 期末配当の基準日	3月31日
● 中間配当の基準日	9月30日
● 単元株式数	100株

● 公告の方法

電子公告によります。但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載いたします。

<http://www.yamaha.co.jp/>

● 株主名簿管理人

東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所

〒460-8685 名古屋市中区栄三丁目15番33号

中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店 証券代行部

同取次所

中央三井信託銀行株式会社本店及び全国各支店、
日本証券代行株式会社本店及び全国各支店

株式事務のお問い合わせ

- 株式の名義書換、単元未満株式買取請求、配当金のお支払及び諸届等は、株主名簿管理人である中央三井信託銀行の事務取扱場所並びに同取次所でお取扱いいたします。

- 手続及び諸届等に関するお問合せ先

0120-78-2031 (平日9:00-17:00)

中央三井信託銀行

- 手続及び諸届等に必要用紙の請求先

0120-87-2031 (24時間受付)

中央三井信託銀行

- 証券保管振替機構(ほふり)に預託されました株券についての手続及び諸届等に関するお問合せは、お取引先の証券会社にお問い合わせいたします。



ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10番1号

Tel: 053(460)2800

Fax: 053(460)2802

URL: <http://www.yamaha.co.jp/>



この「業績のご報告」は再生紙に大豆インキで印刷しました。